

2 型糖尿病向けの新しい治療「インクレチン治療」についての注意

2010 年 12 月
日本 IDDM ネットワーク

最近、2 型糖尿病の新しい治療法として「インクレチン治療」が話題を呼んでおります。インクレチンとは血糖値が上がると小腸から分泌され、膵臓からのインスリン分泌を促す働きを持つホルモンです。この作用に基づいた治療をインクレチン治療と呼び、高血糖のときのみ作用する新しい 2 型糖尿病向けの治療法として期待されています。

インクレチン治療としては大きく 2 種類に分けられます。それは①インクレチンの一種である GLP-1 の作用を発揮する「GLP-1 受容体作動薬」の投与(注射)と②血中にあるインクレチン(GLP-1)を分解する酵素(DPP-4)の働きを抑えて、患者の自身の持っている GLP-1 の作用を強める「DPP-4 阻害薬」の投与(飲み薬)です。

いずれのインクレチン治療も 2 型糖尿病で自分のインスリン分泌がある方に対して効果がある治療法で、1 型糖尿病のように自分のインスリン分泌がほとんど無い方には全く効果は期待されません。

しかし最近インスリン治療を行っている患者がインスリン治療を中止し、上記①の GLP-1 受容体作動薬に切り替えて、急激な高血糖や死亡に至った例がありました。

厚生労働省や日本糖尿病学会からは医療者向けに GLP-1 受容体作動薬とその治療について以下のような主旨の注意喚起が行われています。

- ・ この薬はインスリンの代替薬ではないこと
- ・ インスリン依存状態の患者(1 型糖尿病、インスリン治療が不可欠な 2 型糖尿病等)へはインスリンからこの薬への切り替えは行わないこと

詳しくは以下のホームページを参照してください、

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000twus.html>

日本糖尿病学会 <http://www.jds.or.jp/>

なお、2010 年 12 月末現在、国内で販売されている GLP-1 受容体作動薬(注射薬)には以下のものがあります。

薬品名	メーカー	成分
ビクトーザ	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社	リラグルチド
バイエッタ	日本イーライリリー株式会社	エキセナチド

今後も GLP-1 受容体作動薬は新しいものが発売される予定がありますが 1 型糖尿病あるいはインスリン依存状態(IDDM)の糖尿病の方は決してインスリン治療を中止してこれらのインクレチン治療に切り替えることのないようご注意ください。